

各 位

会 社 名 株式会社日本トリム  
代 表 者 代表取締役社長 森澤 紳勝  
コード番号 6788 東証第一部  
問い合わせ先 専務取締役管理本部長  
尾田 虎二郎  
(TEL. 06-6456-4600)

平成 30 年 3 月期 第 2 四半期の業績予想値と実績値との差異及び  
通期の業績予想の修正に関するお知らせ

平成30年3月期第2四半期（累計）の業績予想値と実績値との差異についてお知らせいたしますとともに、最近の業績動向等を踏まえ、平成29年4月27日に公表した通期の連結業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成30年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値と実績値との差異（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 7,800	百万円 1,370	百万円 1,440	百万円 930	円 銭 111.59
実績値 (B)	6,944	1,001	1,070	664	79.93
増減額 (B-A)	△855	△368	△369	△265	—
増減率 (%)	△11.0	△26.9	△25.7	△28.5	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成29年3月期第2四半期)	8,122	1,765	1,719	1,182	140.55

2. 平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 16,030	百万円 3,010	百万円 3,110	百万円 2,000	円 銭 239.98
今回発表予想 (B)	14,080	1,880	1,950	1,240	149.09
増減額 (B-A)	△1,950	△1,130	△1,160	△760	—
増減率 (%)	△12.2	△37.5	△37.3	△38.0	—
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	15,251	2,929	2,905	1,969	234.46

### 3. 修正の理由

当第2四半期連結累計期間における連結業績予想と実績との差異の理由は以下のとおりであります。

電解水素水整水器販売につきましては、昨年来の販売不振は本年4月に既に底を打ち、第1四半期はほぼ期初計画に沿った業績となりましたが、第2四半期におきまして、徐々に回復基調にあるものの遅れる結果となりました。水素水に対する一連の報道の影響は既に収束しており、外的要因ではなく、9月に発売しました新製品「トリマイオンGRACE(グレイス)」へのシフトに伴う内的要因によるものと分析しております。

直接販売部門におきましては、販売効率の回復を第一の課題として取り組んでおりますが、新製品の販売単価を上げたことにより、販売効率の回復のペースを一時的に落とすこととなりました。一方で、当初、販売単価が上がることから当製品の販売構成比を25%程度と見込んでおりましたが、構成比が約50%にあがったことにより生産が間に合わず、1億円超の受注残が残る結果となりました。既に生産体制の整備を進めており、11月には解消できる見通しです。トリマイオンGRACEは、電解水透析で実装している技術を家庭用に応用した画期的な製品で、今後の主力製品となります。販売効率の回復につきましては、対策として営業トークを見直すとともに営業研修を実施し、その成果が出始めております。「健康経営」を切り口とした営業展開では、企業の決裁が伴うため時間を要しておりますが、一括購入の好事例が複数出てきております。卸・OEM部門におきましては、今期上半期からを計画しておりました新規大口取引のスタートが遅れており、今期中に本格的展開を始めるべく協力して取り組んでおります。ストックビジネスである浄水カートリッジ販売につきましては、着実に伸長しております。

一方、他のグループ事業につきましては、概ね順調に進展しております。

以上の結果、整水器販売事業の売上高が当初予想を下回ったことにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益も予想を下回る結果となりました。

当第2四半期業績を踏まえ、当下半年におきましては、次期から改めて成長軌道に乗り、持続的成長を実現していくために、中長期的視野に立った体制の見直し、基盤強化に注力いたします。それに伴い、下半期の業績予想を保守的なものとし、通期業績予想を修正いたしました。

整水器販売事業におきましては、「健康経営」を切り口とした企業提案によるB to Bの一括販売方式への移行を進めるとともに、新たな販売手法にも積極的にチャレンジしてまいります。卸・OEM部門では、大口の新規取引先の開拓とともに、アジア、東南アジアでの海外取引の拡充に取り組みます。また、整水器の飛躍的普及拡大を目的に、国立研究開発法人理化学研究所との共同研究を始め、電解水素水の機能解明、効果の実証に関する研究をさらに精力的に推進いたします。

農業分野では、還元野菜の検証が着実に進展しており、まずは来期に売上高1億円を達成させるべく取り組みます。

電解水透析では、臨床で大きな成果を得ており、営業展開を強化して普及を加速させてまいります。

大きな成長が期待される先進医療分野（国内最大の民間さい帯血バンク事業、国産細胞医薬品開発事業、再生医療関連機器製造販売事業）におきましては、将来のトリムグループの柱の一つとして成長させるべく、引き続き体制強化に取り組んでまいります。

中国での病院事業は、いよいよ年内到北京にフラッグシップ病院が開院する予定です。既に次に向けた複数地区の候補先との交渉など具体的な動きを開始しており、早期多店舗化を実現してまいります。

当社グループ事業全般に亘り、当社の目指すメディカルカンパニーへの成長に向けたステップを着実に進んでおります。そのスピードをより早めるべく、引き続きベンチャー精神を持ってチャレンジしてまいります。

### 4. 配当予想について

当初の予定どおり、1株当たり年間60円を予定しております。

(注) 上記の業績予想は、本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上